

今後の当山行事予定

初不動大法会(1月28日)

●御本尊開扉大護摩供

午前5時・10時・11時30分・午後1時30分・3時

【大般若経転読法要】午前11時30分

●開運厄除 節分福豆授与 1月28日～2月3日まで

節分会(2月3日)

●本堂 護摩祈祷時刻

午前6時・9時30分・10時30分・11時30分・

午後1時・2時30分・3時30分・5時

●如意宝珠のお授け 午前9時～午後4時

●開運福豆まき式 午前11時頃・午後0時頃・午後1時30分頃

●甘酒のお接待 先着2千名様程度 無くなり次第終了

●節分会準備期間(1月31日～2月4日)は

交通安全祈願のお勤めはありません

花まつり(3月28日～4月8日)

●甘茶のお接待 同日

明王殿年祭(4月1日)

交通安全祈願

午前9時より午後4時まで

(日・祝日は午後4時30分まで)

毎時0分/30分の30分毎

(毎月28日および1月31日～2月4日はお車の安全祈願はございません)

毎日の御護摩奉修時間

午前6時(28日は5時)

午後1時30分

午前10時

午後3時

午前11時30分

仏具磨きの日のお知らせ

1月25日

2月25日

3月25日

この日は仏具を磨く日ですから、昼の御護摩はございません。(朝6時のお勤めはいたしております)

明けましておめでとうご

ざいます。ご信徒皆様にお

かれましてはご清祥にて新

年をお迎えのことと存じ

ます。

旧年中は格別のご信援を

賜り、厚くお礼申し上げます。

す。年頭にあたり、皆様のご

健勝とご発展を重ねて祈念

いたします。

開創千二百年記念事業

は、今年度中の完成を目指

し工事が進んでおります。

本年も何卒よろしくお願

いたします。

いたします。

編集人



令和2年1月8日発行

通巻 164号

発行所

瀧谷不動明王寺

〒584-0058

富田林市彼方1762

電話 0721-34-0028

振替 00930-5-17704

●発行人 荒谷純光

●編集人 荒谷純栄

法話 報恩謝徳の生活③ 山口真司師 2～3頁
 干支の守り本尊 千手観音 4頁
 経典解説 十善戒 3頁
 令和二年 開創千二百年 記念事業経過報告並ご奉讃お願い 4頁
 記念事業寄進者御待遇表 5頁
 一月二十八日 初不動法会のご案内 「大般若転読」とは 6頁
 二月三日 節分会のご案内 7頁
 節分会行事のご案内 厄除のご祈祷 8頁
 如意宝珠のお授け/星祭のご祈祷 9頁
 福豆まき参加者募集(般参加者)/節分会 甘酒お接待/ 10頁
 修正会不動力ご奉納のお礼/修正会期間中出仕のお礼 11頁
 今後の当山行事予定 12頁

無明と明

かつて富士山に登り、山頂で御来光を拝んだことがあります。

まだ日の明けぬ真つ暗な深夜。頭に小さなライトを付け、八合目の山小屋を出発します。御存知のように富士山の頂上付近はガレキと土砂ばかりで歩く度に足が砂にのめり込みます。また三千メートルも登ってきますと、軽い高山病のため頭痛と吐き気にも襲われます。何時間もかけて、右も左も分からない悪路を必死になって登りきり、明け方近くになって、やっとの事で山頂にある鳥居をくぐる頃、夜空はほんのり赤みがかってきます。息



唯唯ご来光のありがたさで心が一杯になりました。そして、悟りに至る智慧は単なる知識ではありません。多くの苦勞や経験を積んで初めて獲得できる

さて仏教では智慧を光に譬え、そして煩惱を暗闇に譬えます。お釈迦様は、この世は苦しみの世界であり、その苦しみから逃れる道筋を悟られました。何故、私たちは苦しまなければならないのかと。そして、その根本原因は「無明」によるのであると説かれました。「無明」とは文字どおり「光明が無い」ことであり、仏教では「智慧がない」という意味で使われます。私たちは、その光に譬えられる智慧、悟りに至る智慧が無いに、煩惱の暗闇をさまよひ、いつも苦しまなければならないのです。そして、悟りに至る智慧は単なる知識ではありません。多くの苦勞や経験を積んで初めて獲得できる

をせいぜい吐きながら東の方向を振り向くと、雲海の際より徐々に太陽の光線が射し出し、世界が瞬間のうちに明るくなってきます。その日の出を見た瞬間、それまでの苦しさと疲れがどこかに吹き飛び、

法話「報恩謝徳の生活」

平成二十八年四月一日
その③

埼玉県加須市 總願寺
山口 真司 師

『大乘本生心地観経』で説いて
いる四つ恩の三番目は「国王の恩」
です。これは国が平和である恩と
いう意味です。

今はイスラム国のこととか、難
民のことが世界中で問題になって
おります。特にヨーロッパ各国は
この難民問題が大変みたくです。
テレビや新聞の報道を見て悲しい
など思うのは、小さな子供が両親
に手を引かれて国境を越えていこ
うとする姿、お年寄りが着の身
着のまま歩いている姿、おじい
さんおばあさんが孫を大事そうに
抱いて、家族が寄り添って国境に
向かっている姿などを見ると、な
んでこんなことになってしまったの
かなと考えてしまいます。国同士
での宗教の違い、置かれている状
況等、いろいろあるでしょう。私



たちにはわからないことがいっぱい
あるんだと思います。

でも人間は単純に幸せに生き
て、そして死んでいきたいとどこ
の国の人も思っていると思うん
です。けれども、そうした願ひも
叶わない方が確かにおられるん
です。改めて日本は平和でいいな
と思つてしまいます。様々な意見
はあると思いますが、一般的には
とんどの日本人の方は、寝るとこ
ろにも食べるものにも困らずに、
普通に生きて普通に死ぬことが出
来ると思います。少なくとも国
を追われるということはありません
から、それだけでも平和と言え
るんじゃないでしょうか。

私の母は昭和6年生まれで先の
戦争体験者です。ですので子供の
時によくつらかった話を聞かされ
て、「ものを捨てるな、大事にしろ」
とよく叱られていました。大正生
まれのあるお寺の御住職は、学徒
出陣で学生時代に戦争に行かれ
ました。その御住職が「ねづね仰つ
ていたのは、「自分よりずっと優秀
な方々がみんな戦争で命を落とさ
れてしまった。わたしは全然優秀
ではないのにこうして生き残つてい
る。亡くなった優秀なお坊さんた
ちが生きていたらもっと素晴らし
い法話をしてくれたりうし、お寺
を一生懸命守ってくれたらうに。
そう思うとその人たちの分も一生
懸命お話をして、一生懸命お寺を
守つていかなければならないと思
います」とよく言われていました。
国が平和であるのはありがたいこ
とだというのは、この御住職さん
の話からもよくわかります。

最後が「三宝の恩」でして、三
宝とは仏・法・僧のことです。ど
ういうことかというのと、先ず「仏」
は仏さまのことです。仏さまは、
私たちの心の中にある全ての悪い

恩にもつながっていきます。
最後に、ご恩に感謝が出来る
ということは、自分を謙虚に見るこ
とができ、懺悔をすることが出来
るといことです。懺悔、反省を
するということは私たちにはとて
も大切なことなんです。本日お話
しました四つ恩を知つてもら
えば、自分にはこれだけのいろん
なご恩があつて生かされているん
だ、だからこの自分の生命を大切
にしよう、このご恩に報いる生き
方をしようと思えると思います。
本日はご静聴誠にありがとうございました。
(完)

●一部、読みやすいよう語尾等の
表現を改めています。



ものを追い払つて、私たちに懺悔
をさせてくれて、良い方向に向か
わせてくれる、ということ。す。
「法」というのは、その仏さまが
説いてくれた教えのことです。簡
単に言えばお経です。お経はお釈
迦さんが考えた、もしくは仏さま
から聞いたことなどを書き留めた
ものです。そして「僧」はお坊さ
んのことですが、広い意味でい
うことです。だからお不動さまを
信じてこのお寺に集まるみなさん
も僧ということになります。本堂
でお護摩を受けられる時も、御
住職と一緒に一生涯懸命祈りを
捧げておられる。ですからみなさ
んも広い意味では僧ということに
なります。



千支の守り本尊 千手観音

日本では、生まれ年の千支によつ
て守護してくれる仏さまが決ま
ておりまして、当山でも本堂裏手
の奥の院にそれぞれの千支守本尊
さまをおまつりしています。今回
よりこれらの仏さまを「体ずつご紹
介いたします。

先ずは子(ねずみ)年生まれ守
り本尊。「千手観音」さまです。正
式な名前は「千手千眼観世音菩薩」
といい、千本の手にそれぞれ眼が刻
まれていることに由来します。千の
手は多くの衆生に手をさしのべる
「慈悲」を、眼は人々を教え導く
「知」を表すとされています。また
それぞれの手には「持物」といって衆
生を救済する力を示す道具を持
っております。

当山の千手観音さまを含め、多く
の仏像には実は千本の手はありま
せん。正面で合掌している2本と、
左右に広げている40本の手があり
ます。これは「一本の手で「二十五有」
という二十五の世界の衆生を救うこ
とを表しています。

御真言：オン パサ ラタ ラマ キリク

またこの仏法僧を现实生活にあて
はめると、仏は師匠もしくは信じ
られる先生ということになりま
す。法はどうやって生きていくか
というビジョンになります。人生の
目標とかと思つて下さい。僧は仲
間です。良い友達を得ましよう
ということ。このように仏法僧
の三宝とは私たちが生きていく
うえで欠かせないものだというこ
とがよくわかります。



もう少しわかりやすく別の解
釈でいいますと、私たちというの
はお父さんとお母さんが直接の原
因で生まれてきました。でももっ
と前には、仏さまから命をいただ
いてきたんですね。そしてこの世

に生れて死ぬとどうなるか？ 仏さ
まのところに戻るんですね。亡く
なると忌日というのがあります
が、初七日がお不動さま、二七
日がお釈迦さま、三七日が文殊
さま、四七日が普賢さま、五七
日がお地藏さんで六七日が弥勒
さま、そして七七の四十九日
お薬師さまです。毎週これらの
仏さまに教えを説いていただい
て、四十九日のあとに仏さまに次
に生まれてくる人を決めてもら
つて、生まれる時期が来るまで極
楽で休んで、時が来ると仏さんか
ら命をいただいて、お父さんとお
母さんを直接の縁としてこの世に
生まれてくるわけです。実は私
たちは生まれる前から、仏さま
のお導きをいただいている。とす
ると一番大切なのは仏さまとい
うことになります。

みなさんは特にこの瀧谷のお不
動さまと縁があつてお参りを
されています。どうぞこの縁を
大切にご信仰を続け、お参りを
続けてください。そうすればお
不動さまはいつも皆さまを守つ
てくださいます。そのことが三宝の

経典解説

十善戒
 弟子某甲
 尽未来際
 不殺生 不偷盜
 不邪淫 不妄語
 不綺語 不惡口
 不兩舌 不慳貪
 不瞋恚 不邪見

『瀧谷山礼拝法則』の解説。「十善戒」の三回目。

前々回では、十善戒が身体(身)・言葉(語)・心(意)の三つの側面からなることを説明し、前回では「不殺生」の徳目について、『十地経』を取り上げて説明しました。改めておさらいしておきます。

身業……不殺生 不偷盜 不邪淫
 語業……不妄語 不綺語
 不惡口 不兩舌
 意業……不慳貪 不瞋恚 不邪見

さて、「不偷盜(盗みをしない)」「不邪淫(よこしまな行為をしない)」については、当たり前のことで特に説明するまでもないでしょう。ですので今回は、言葉の行為に關する徳目の内容を、引き続き『十地経』の記述から見ていくことにします。まず、「不妄語」の徳目を体得した菩薩の姿を、『十地経』は次のように描いています。

さらにつぎに、「かの菩薩は」

虚偽を言うことがない。というのは、真理を言い、真実を言い、そのときそのときに適切な言葉を用い、言葉で言ったことはそのまま実行するのである。かの菩薩は、いま経験したり、忍耐したり、ほくそえんだり、思惟したり、推測したりしていることをおおい隠して、事実に反することを語らんと意図し、虚偽なる言葉を言うことはない。たとえ夢のなかでも、そうすることは絶対がない。まして、熟慮してそうすることがあるであろうか。

(荒牧典俊『十地経』大乘仏典)

八、中央公論社二九七四年、七一頁。〔内は筆者による〕

ここで描かれるのは、修行が進み、一切の嘘偽りの言葉を離れた菩薩の姿です。前回確認したように、ここでは単に「嘘をつかない」というだけでなく、それが心のあり方にまで深められている、と見ることもできます。「たとえ夢のなかでも、事実に反することを語らない」という姿は、嘘をつくという思いが、心の片隅にも浮かばなくなったあり方を示すものと言えましょう。現代風に言うならば、矛盾した言い方ですが、無意識に嘘をつくことさえない、という言い方が近いかもしれません。

言い、そのときに適切な言葉を用いる」それは、ただの正直にはできないことは明らかでしょう。こうして、私たちの生活には、知らざると大小様々な「嘘」が紛れ込んできます。問いつめれば、どこまでが「嘘」で、どこまでが「嘘」でないのかさえ分からず、またそうした「嘘」を全て捨ててしまえば、いったい何が残るのか、それは不安を覚えざるを得ません。ただ、せめて仏様の前では正直でありたいと願ひ、そして正直であることができる。そのような相手と出会うということは、とてもありがたいことだと思います。今回もここで紙面が尽きました。続きはまた次回。



令和三年 開創一千二百年

総事業費十二億円 客殿棟 寺務棟新築

記念事業経過報告並ご奉讃お願い

当山は平安時代 弘仁十二年(西暦八百二十二年)弘法大師の開基と伝えられ、令和三年は開創一千二百年に正當いたします。

この勝縁に際し、令和三年五月に開創一千二百年祝禱法要を奉修する予定であります。またこの法要の記念事業として、客殿棟と寺務棟の新築工事を実施しております。

この事業は、災害対策に限界のあった旧来の木造建築を更新する必要があるため、総事業費十二億円、九百坪近くの新築工事となります。当山にとりまして乾坤一擲の大事業であります。開創一千二百年という節目に臨み、新たな時

代を迎える当山にとってまことに相応しい事業であると考え、この発願をした次第であります。ご案内しておりますように、昨年、第二期工事の寺務棟の建設が完了。目下、第二期工事の客殿棟の建設が進んでおります。現在、二階部分の鉄骨の建設が進行しており、全体としては令和二年春の完成を見込んでおります。

瀧谷不動明王寺

当事業には、かねてより多くの方々からご奉讃を賜り、厚く御礼申し上げます。ご奉賛いただいた方には、別項に掲載の規定によつてご芳名を顕彰し、末永く寺録に留めて祈願いたします。御信徒の皆様におかれましては、

お不動様のご威徳を新たな時代に伝えていくため、今後ともさらなるご信援を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。



建設中の客殿棟



完成予想図

記念事業寄進者御待遇表

百万円以上	五十万円以上	三十万円以上	十万円以上	五万円以上	三万円以上	一万円以上
同右	同右	同右	同右	同右	同右	山報に御芳名を掲載いたします。
同右	同右	同右	同右	同右	同右	御芳名簿に記入して客殿 仏間に納め、永く家門繁 栄を祈念いたします。
同右	同右	同右	同右	同右	同右	御芳名を記入した板札を 境内の建札台に掲げ、広 く顕彰いたします。
同右	同右	同右	同右	同右	同右	受付時に記念品を呈呈 し、落慶時にご案内をいた します。
同右	同右	同右	同右	同右	同右	落慶法要にご案内して 記念品を呈呈いたします。

一月二十八日 初不動法会

一年のうちで最初のご縁日である一月二十八日には初不動法会が営まれます。当日は午前十一時半より大般若転読付大護摩供をお勤めし、国家安穩・万民豊樂等を祈念し、あわせてご信徒の皆様のお願いを祈願いたします。

皆様にはぜひ初不動法会にご参拝いただき、お不動様とのご縁を深められますよう、ご案内申し上げます。



初不動法会

「大般若転読」とは……

この「大般若転読」において読まれる『大般若経』は、正式な名前を『大般若波羅蜜多経』といい、西遊記に登場する三藏法師のモデルとして有名な、唐の玄奘三藏によってインドから中国へもたらされました。そこから玄奘三藏は四年という歳月を費やし、巻数は六百巻、文字数にして約五百万字にも及ぶ膨大なこの經典をインドの言語から漢文へと翻訳しました。『大般若経』はほどなく日本へも伝えられ、しばしば法会において読誦されてきました。

声に出して經典を読むことを読経・読誦などといいます。が、經典読誦はお釈迦さまの教えやさりの内容を辿る行為でもあり、写経と並び、大變に功德のあることとされてきました。この『大般若経』においてもしばしば「読誦」することを称える記述がみられます。またその功德によりさまざまなご利益のある旨が説かれていたのです。このように、声に出して經典を読み上げることは、一人でするのはもちろん、何人かで分担してもかなりの時間が必要です。そこで編み出されたのが「転読」です。「転読」という語は古来複数の意味を持つといわれますが、今の転読は經典の首題・巻名・尾題やどこか一節など、特定の部分のみを読む「草転」と呼ばれる略読法によって行われるのが一般的です。こうすることで限られた法会の時間の中でも全巻読み上げたことに代えるのです。

「大般若転読」では大勢の僧侶が集まり、六百巻分の蛇腹折りの經本を大きく宙に広げるようにして読誦します。一斉にたくさんの方々が開かれ、高い位置から落とすようなダイナミックな動きで捲られることによつて風が巻き起こります。こうして起こる風をその身にうけると長寿がかなう、厄除けになるともいわれています。



節分会行事 ご案内

厄除大祈願祭

◆本堂 護摩祈禱時刻
 午前 6時・9時30分
 10時30分・11時30分
 午後 1時・2時30分
 3時30分・5時

甘酒のお接待

◆境内 特設会場
 先着2千名様

交通安全祈願

◆1月31日～2月4日はお勤め
 しておりません。

星祭のご祈祷

◆本堂
 午後5時（護摩祈禱と同時）

開運福豆まき式

◆境内 特設会場
 午前 11時頃
 午後 0時頃・1時30分頃



お護摩祈禱

二月三日 節分会

来たる二月三日、瀧谷山では節分会が厳修され、開運福豆まき式をはじめとした様々な行事が行われます。

節分に行われる厄除けの行事は、宮中で行われた「追儺」の儀式に由来するとされ、現代では一般に、厄年に当たる方が厄除けの祈禱を受けられるとともに、福豆をまくことにより厄を払い、福を招く行事として行われています。

当日は境内にて、年男・年女の方に豆をまいていただき、福をお裾分けいただく開運福豆まき式が三度にわたって執り行われます。

本堂での護摩祈禱も、平常より回数を多く勤めております。左頁にて時刻をご確認のうえ、ご祈禱をお受けください。

また、一年に一度だけの如意宝珠

のお授け、夕方五時からの星祭のご祈禱など、様々な厄除けの行事が行われます。

当日は境内での甘酒のお接待もございます。皆様には、どうぞ節分会にご参拝になり、大きな福をお持ち帰りいただきますよう、ご案内申し上げます。

なお、二月三十一日より二月四日まで、節分会準備のため交通安全祈願のお勤めはありません。ご了承くださいませ。



節分会 厄除のご祈祷

厄年の起こりには諸説あり、二説には神祭りの「役」を勤めるために身を清めるべき年齢であったとも言われています。

一方で現代では、社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかかると病気になるや、年齢、また結婚・出産・育児など生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。特に男性の四十二歳・女性の三十三歳は本厄と言われ、前後にひびく厄とされています。

このように厄年は、肉体的・精神的・社会的な節目にあたる年齢です。厄年に当たられる方には、厄年を無事に過ごし、災難を避けられるよう、厄除けのご祈禱をお受けになることをお勧めいたします。

●厄年 早見表(年齢は数え年)

男性			女性		
平成 8年生まれ	25才	厄年	19才	平成 14年生まれ	
昭和 55年生まれ	41才	前厄年	32才	昭和 64年生まれ 平成 元年生まれ	
昭和 54年生まれ	42才	本厄年	33才	昭和 63年生まれ	
昭和 53年生まれ	43才	後厄年	34才	昭和 62年生まれ	
昭和 35年生まれ	61才	厄年	37才	昭和 59年生まれ	

分当日、厄除大祈願祭として盛大にお勤めしております。

また、瀧谷山では年中お護摩祈禱をお勤めしておりますので、折り悪く節分までに受けられなかった方も、時節にこだわらずお越しくださいますよう、ご案内申し上げます。



節分会の福豆まき

福豆まき参加者募集(般参加者)

二月三日の節分会では、境内にて開運福豆まき式を執り行います。その豆まき式にて豆をまいていただく年男・年女の方を、当り年にかかわらず募集しております。皆様にはぜひ豆まきにご参加いただき、大きな福をお持ち帰りいただけますよう、ご案内申し上げます。

◆ 場所 境内特設会場

◆ 日時 二月三日(月)

- ・第一回 午前 十一時頃 (本堂十時三十分の御護摩の後)
- ・第二回 午後 零時頃 (本堂十一時三十分の御護摩の後)
- ・第三回 午後 一時三十分頃 (本堂一時の御護摩の後)

◆ 募集人数 三十名

性別、年齢は問いません。お申込み、お問合せは寺務所まで。

◆ 年男・年女参加費 一万円 (豆をまく人)

◆ お申込みの方には、詳しいご案内を差し上げます。

◆ 記念品

祈祷札熊手・福豆

如意宝珠のお授け

如意宝珠は、意のままにあらゆる願いをかなえ、人々を救う力があることから、如意宝珠と呼ばれています。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理の如来の分身なり」と述べられ、この如意宝珠は、限りない慈悲の心をもった仏の御身そのものであると説かれています。弘法大師以来、如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切にお祀りしておりますが、ぜひとも皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただくという思いから、一年に一度だけ、節分会に皆様にお授けしております。

皆様どうか節分会には是非ご参拝になり、如意宝珠のお授けを受けられて、本年のご幸福を得られますようおすすめ申し上げます。

● 場所 寺務棟 特設道場

● 時間 午前九時～午後四時

● お授けの後、如意宝珠守を授与いたします。一体、千円以上のご志納をいただいております。



如意宝珠のお授け

星祭のご祈祷

九曜星は、羅睺星を始めとする九つの星で、九年ごとにめぐってその年の吉凶を左右するとされま

す。星祭は、一年の節目である節分の日に、これらの星を供養することで、二年の禍を払い、運を開き福を招く儀礼で、日本では古く平安時代から行われてきました。

来たる二月三日の午後五時より本堂にて、お護摩祈祷とあわせ、その年の人それぞれの運命をつかさどる九つの星を供養し、息災延

命・開運招福等、所願成就を祈念しお勤めいたします。年齢や当星にかかわらずお申込みいただき、今年一年のご多幸を祈られますよう、おすすめいたします。

● 星祭のご祈祷の申込は、同封の申込用紙に氏名・年齢(数え年)をはっきりと記入いただき、一月二十日までに送りください。



星祭のお札

令和二年九曜星早見表(数字は数え年)

● 羅睺	大凶	七赤	1	10	19	28	37	46	55	64	73	82	91
● 土曜	半吉	八白	2	11	20	29	38	47	56	65	74	83	92
○ 水曜	大吉	九紫	3	12	21	30	39	48	57	66	75	84	93
○ 金曜	末吉	一白	4	13	22	31	40	49	58	67	76	85	94
○ 日曜	大吉	二黒	5	14	23	32	41	50	59	68	77	86	95
● 火曜	大凶	三碧	6	15	24	33	42	51	60	69	78	87	96
● 計都	大凶	四緑	7	16	25	34	43	52	61	70	79	88	97
○ 月曜	半吉	五黄	8	17	26	35	44	53	62	71	80	89	98
○ 木曜	大吉	六白	9	18	27	36	45	54	63	72	81	90	99

節分会 甘酒のお接待

二月三日、境内にて甘酒を接待申し上げます。恐れ入りますが、先着二千名様に限らせていただきます。



甘酒のお接待

修正会不動力ご奉納のお礼

修正会にお不動態の御宝前にお供えする聖酒「不動力」の奉納をご案内いたしましたところ、沢山のお供えを賜りまして、誠にありがとうございます。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

修正会期間中出仕のお礼

修正会期間中、日頃からお世話になっております奉賛会 修験部・世話人部 婦人部役員・二八会の皆様には、新年早々お忙しいところ、また寒い中をご出仕ご奉仕いただき、誠にありがとうございます。紙面を借りてここに厚くお礼申し上げます。